□小山鐵夫: **黒船が持ち帰った植物たち** 98 pp. 1996. アボック社. ￥1,500.

ペリー来航140年を記念して，日本大学生物資源学部資料館が行った特別展示と講演会の記録．黒船艦隊が採集した資料が，東亜・北米の植物相の類似性を明らかにするきっかけになったことはよく知られている．永年ニューヨーク植物園に勤務した著者が主体となって，米国にある標本を借り出し，日本側の資料と共に解説しており，充実した内容となっている．本文はまず黒船艦隊の採集の経過をのべ，次に東亜と北米の植物の隔離分布についての和英両文による解説がある．後半57頁にわたって，採集標本112点の鮮明なカラー写真が，解説と共に示されており，小山氏による再検討の結果やコメントが記されている．標本の保存状態は驚くほどよい．東亜植物の研究にはたいへん有用な資料である．

（金井弘夫）

□大場秀章（編）：**日本植物研究の歴史** 1996. 東京大学総合研究博物館. ￥2,800.

小石川植物園300年の歩みを副題として行われた特別展の図録である．東京大学理学部付属植物園は徳川期の御薬園にはじまり，近代日本の自然科学の発足当時，イチョウ・ソテツの精子発見の舞台となり，植物学教室は1934年に本郷に移転するまで，ここで研究教育を行っていた．どちらかというと歴史的面に重点を置き，一部は現在や今後の研究・運営の展開につき，11人の執筆者による14篇の文章がある．歴史的資料となる人物や光景の写真も数多い．気づいた誤りとしては，53頁の藤井健次郎は中野治房であり，106頁で服部静夫とされた人物は武田久吉である(服部は後部中央)．明治14年の植物園日誌と植物園所蔵の本草図書目録が付録にある．入手については東京大学出版会へ問い合わせよとのことである． （金井弘夫）

□大場秀章: **日本森林紀行** 199 pp. 1997. 八坂書房. ￥1,800.

著者が日本各地の森林を訪れた随想集である．斜里，新庄，裏磐梯，鎌倉，伊勢，熊野，京都，祖谷，福山，長崎，西表島の，植物というより森を題材とし，自然と人とのかかわりについて，著者の文才をうかがわせる読み物である．植物学の基礎知識と世界各地での見聞が，内容を豊かにしている．自然愛好者に好まれる本であろう． （金井弘夫）

□大場秀章: **植物学と植物画** 298 pp. 1996. 八坂書房. ￥5,768.

趣味の植物画は広く浸透している．本書は植物学に貢献した植物画について，その生いたちや社会的背景，作者の人物像などがのべられている．とくに，植物学者と植物画家のかかわり方について，著者の蘊蓄が披露されている．見出しはI私の植物画論にはじまり，IIリンネとエイレット，IIIバンクス植物図譜とシドニー・パーキンソン，IVキュー植物園の植物画家と植物学者，V花の画家ルドゥテと植物図譜，VIバラとバラ図譜，VII日本の植物図譜で終わる．日本の画家としては岩崎灌園，川原慶賀，清水東谷，五百城文哉が挙げられている．32頁のカラープレートのほか多数の単色図が挿入され，値段のわりに贅沢な中身である．それと，トピックごとにつけられた多数の頭注は，これだけをたどっても多くの知識を得られるだろう．索引は植物名，地名，人名，書名，事項名と，なんでも出てくるおもしろいものである．

（金井弘夫）

□Bailey L. H.（八坂書房編集部訳）：**植物の名前のつけかた** 植物学入門 238 pp. 1996. 八坂書房，￥2,884.

名前はよく知られているが，訳書の少ない原著者の，How Plants Get Their Names（1933）の全訳である．リンネの二名法の確立に始まり，同定・標本・それを保存する標本館の意義，命名規約とはなしが進み，学名にまつわるエピソードに及ぶ．学名の解説書という堅苦しい印象があるが，本書は物語り風の柔らかい読み物であり，植物分類学をやらない人でも入ってゆけるだろう．命名規約の部分は最近のものに置き換えて読むべきことは勿論である．訳者の工夫のほども察せられ，このことはあとがきの懇切さにも表れている．約3000語におよぶ種の形容語一覧には，訳者によると他書にない語彙が含まれているそうで，これまた有用な資料となるだろう．

（金井弘夫）